

東海村事故 - 労働者・住民に大量の被曝を強要！ もう2度と東海村事故を繰り返さないために！



写真：樋口健二 10月1日撮影

茨城県東海村で9月30日に起こった臨界・被曝事故は、チェルノブイリ事故以降最悪のものでした。事故当初の爆発的な核分裂反応で3名の労働者が広島原爆の爆心に相当する被曝をしました。100人を越える労働者と大量の住民に被曝を押しつけました。政府は被曝の事実を隠し続けています。事故の原因も全て作業者とJCOになすりつけ、自ら責任をとろうとはしていません。

中性子線による被曝とは？

今回の事故で問題となった中性子線の特徴は、まず第1に透過力が極めて強いことです。放射線のうち、透過力が比較的強いガンマー線でも鉛に当たると止まりますが、中性子線は鉛でも薄いコンクリートでも突き抜けます。

第2に人体に対する強い影響です。中性子線はガンマー線の10倍から20倍危険であるとされています。また、中性子線を浴び血液中のナトリウムが放射性ナトリウムとなれば、体内から強い放射能を出し、まわりの臓器がガンなどで冒される危険が高まります。

しかし、この事故の最大の責任は政府にあります。重大事故はもうゴメンです！東海村事故を繰り返さないために「今こそ脱原発を！百人署名」をそれぞれの思いで作って、広め、政府に脱原発への政策転換を迫っていきましょう！



今こそ脱原発を！百人署名を進めよう！

1. 労働者・住民が被曝させられた！

中性子線を大量に出す今回のような臨界事故の場合、「出来るだけ早く、できるだけ遠くに逃げる」のが、被曝を最小限にする最良の方法です。しかし政府は、住民の避難について全く何の対策もとりませんでした。そのため、多くの住民が自宅待避という名の封じ込めによって被曝させられました。しかも、被曝に関して感受性が高い乳幼児や妊婦の避難も全く考えられませんでした。更にチェルノブイリの子どもたちを苦しめた放射性ヨウ素が環境中に放出され、住民を襲いました。

3人の重体の作業者の被曝量は、17、10、3シーベルト(Sv)と推定され、広島原爆の爆心地からそれぞれ百m以内、400m以内、700～800mでの被曝に相当します。

また、当日敷地内にいた124人の労働者は全員が相当の被曝をしたと考えられ、中でも最高被曝者は200mSvにも及びます。これらの被曝の責任も事故を起こすような施設を許可した政府にあります。

臨界事故

被災登録を開始

住民120人 被ばくと判断

東海村臨界事故の被曝線量を
広島原爆の被曝距離でみると
(原医研の鎌田教授の協力で作成)



【注】「その他の被曝者」は1.8km～4km未満
99/10/23 中国新聞より

2. 被曝を隠している！

政府・科技庁は、未だに被曝者として69人しか認めていません。決死隊の21人についても、計画被曝として被曝者に含めていません。事故時の最高被曝量としての100mSvを越える120mSvもの被曝をさせられたにもかかわらずです。

茨城県東海村は、避難した住民120人を「放射線を浴びた可能性が高い」として「被災地住民登録」を始めましたが、まだ被曝者と認めただけではありません。しかし半径450m以内の周辺住民は、一般住民の年間被曝限度(1mSv)を越える被曝をさせられました。政府の被曝を隠した罪は重大です。



水抜き作業(決死隊)の陣頭指揮に立ち、労働者に大量被曝を強要した住田原子力安全委員長代理(写真右端、写真は科技庁HPより。)

住田氏は、第1回の事故調査委員会の中で、水抜き作業時の最高被曝量91.20mSvについて、「数字は間違っている」「その場で指摘しまして私が何回も直した」と数値が高すぎて「まずい」のでデータを書き直したと語っています。

3. 事故を起こした責任は政府にある！

事故を起こした責任

政府は、作業員とJCOに全ての罪をなすりつけ、自らの責任逃れに腐心しています。しかし、どんな操作ミスがあっても臨界事故を起こさないというのが原子力規制の鉄則のはず。そもそも16kgの高濃縮ウランを入れれば臨界を起こす装置で操業を認めた科技庁と原子力安全委員会に事故発生の責任があります。しかも、臨界事故が起こり得ないとして、中性子モニターやホウ酸注入装置などの臨界防止対策を全くとらずに運転を許可していました。これによって被曝者が拡大した責任も政府にあります！



「サンデー毎日」10.17号

事故から8時間も臨界の継続を認識できず、その後も何の対策もとらなかった責任。

事故の次の日には何の根拠もなく「安全宣言」を出した責任。

事故後2週間以上も放射性ヨウ素を放出し続けていた責任。

これらの責任を全く逃げようとしている政府の姿勢は絶対許せません！

関電高浜4号の11月疑惑のMOX燃料の装荷反対！

関電は、高浜3号では燃料製造過程におけるデータねつ造の事実を認め、作り直しを決定しました。ところが、高浜4号についてはデータねつ造の事実はなかったとして、何が何でも11月にプルサーマルを実施しようとしています。

しかし、私たちのデータ解析によれば、高浜4号もデータねつ造の疑惑が濃厚です。ただでさえ危険なプルサーマルに疑惑だらけの燃料を使うなんて許せません。

若狭を第2の東海村にするな！

もんじゅ事故、東海村爆発火災事故、今回の臨界事故と重大事故は近年日本ではばかり。それもますますエスカレートしています。このままでは若狭で破局的事故が起きてしまいます！

若狭を第二の東海村にしないためには、11月に予定されているプルサーマルの実施を止めさせなければなりません。福井県知事宛の「疑惑のMOX燃料の使用を認めないで！」はがきを送る運動と併せて、「百人署名運動」を進めましょう！

高浜MOX燃料

反原発団体
県に不認可要望

4号用もねつ造疑惑

全国各地津々浦々から 「今こそ脱原発を！百人署名」を進めよう！

破局的な事故を起こす前に、原発依存のエネルギー政策を脱原発に転換させたい！
私たちは居ても立ってもいられない思いで、「今こそ脱原発を！百人署名」を開始しました。全国各地津々浦々から、それぞれの思いを込めた同様の署名を開始しましょう！共同提出を目指しましょう！

東海村事故は他人事ではない！

これ以上被曝者を出すな！

今こそ脱原発を！百人署名



内閣総理大臣 小淵恵三様

原発強行推進をやめ、世界の流れにそって、脱原発へ大転換すること

(プルトニウム利用 原発の新増設 老朽炉の延命 核のゴミ捨て場探しをまずやめること)

東海村「安全宣言」を撤回し、事故と被曝に関する一切の責任を負うこと

プルサーマル計画を中止すること

コスト最優先 安全無視の原発の運転をやめること

ついに東海村で、チェルノブイリ以後、最悪の重大事故が起きました。政府・安全委員会は、妊婦や乳幼児を避難させることすら行いませんでした。作業員と周辺住民に被曝を押しつけ、被曝を隠し、責任逃れに奔走しています。もう政府を信用することなどできません。

このままでは、第2、第3の東海村は必至です。しかも今度は、原発でチェルノブイリ級の大惨事を起こしかねません。核のゴミだけでも、子供達に取り返しのつかないツケをまわすこととなります。

原発大増強に固執しているのは日本だけです。事故の再発を防止するには、もはや、原発から撤退していく以外にありません。世界の脱原発の流れにそって、わが国も脱原発に大転換すべき時です。

氏 名	住 所	カンパ

全国各地津々浦々から、それぞれの「今こそ脱原発を！百人署名」を進めよう！
共同の提出をめざそう。第一次集約（1999年12月中旬予定）

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会

(大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル1階 TEL06-6367-6580 FAX06-6367-6581)

ホームページ <http://www.jca.apc.org/mihama>